

「八ッ場ダム建設事業の検証にかかる検討報告書（素案）」に対する意見
～利水の検証の前提条件に対する疑問～

（東京都東久留米市在住）

■ 水道水源としての地下水

大災害時などに、地盤変動による中間水道施設・配管の大幅な損傷、大規模長期停電など、給水機能が長期にわたって停止する可能性を考慮しておかなければならず、身近な水源としての地下水は非常に貴重である。その地下水を非常時に確実に使えるようにするためには、普段使い続けていることが有効である。

この点に関し東京都を除く群馬県（4-84, 87ページ）、埼玉県（4-97ページ）、千葉県（4-112、116ページ）、茨城県（4-120ページ）ではいずれも地下水を正規の水道水源として使っており、今後も使い続けることにしている。しかるに東京都だけは、（これまで多摩地域の地下水45万m³/日を水道水源として長年使っており、今後も使用可能な水源であるにもかかわらず）正規の水道水源として認めず、あくまでも暫定水利権量として扱うことにより保有水源の意図的な過小評価を行って、八ッ場ダム完成後は水源量として扱わないこととしている（4-101ページ、図4-3-11）。

この理解に苦しむ東京都の判断、それをそのまま認めて利用予定者の保有水源の意図的な過小評価を行っている国土交通省関東地方整備局の態度は、誠意をもって検証に取り組んでいないことが明らかである。

■ 減少し続ける給水量実績値と過大な将来予測（東京都など）

東京都では、平成13年から平成21年にかけて1日最大給水量（実績）が減少し続けているにもかかわらず（図4-3-11、4-101ページ）、この間8%程度給水人口が増えていることを根拠に（図4-3-10、4-100ページ）、計画最大給水量を大きく増加させ6,000,000m³/日としている。その実績から考えて計画最大給水量は過大で、尊重すべき実績データに逆行している。

■ 改めて公正な検証を

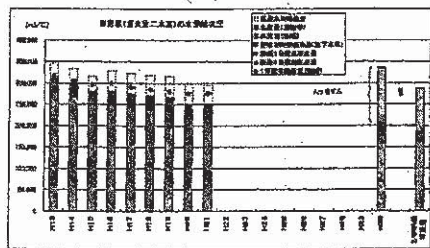
上記のように、関東地方整備局は利用予定者の保有水源の意図的な過小評価を行い、水需要実績を無視した過大な需要予測を行って、現実性のない利水代替案と比較して八ッ場ダム有利、の結論を作っている。

政府は八ッ場ダムの予断なき検証を約束した。しかし上記のように、実績を無視した過大な水需要予測、単に形式的な利水参画者の水需要足し合わせなど「予断なき」、「科学的・客観的」からほど遠い今回の検証は政府の指示に背いているのではないか。

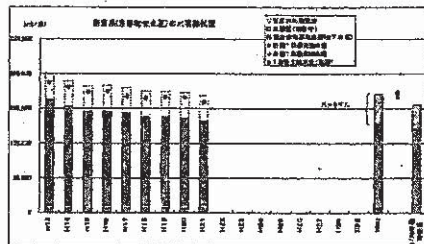
改めて第三者機関の設置、従来の河川行政に批判的な専門家も加えた公開の場での公正な検証を求める。

以上

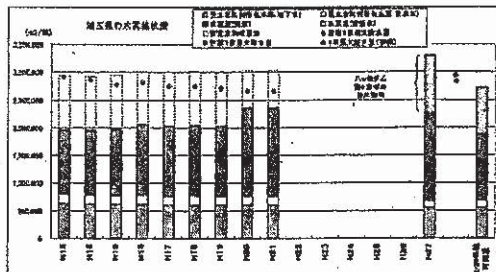
各県の水需給状況 (従来も今後も地下水を水源としている)



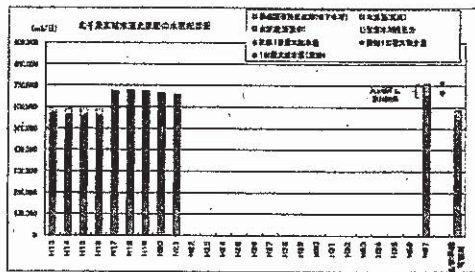
群馬県(県央第2水道)の水需給状況



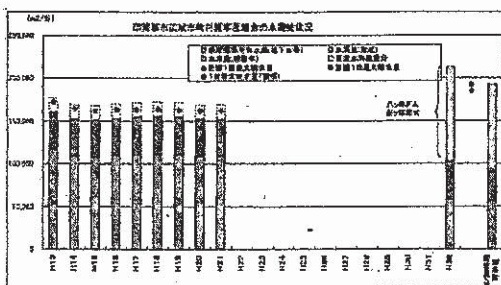
群馬県(東部地域水道)の水需給状況



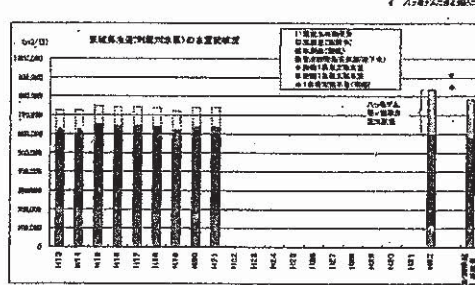
埼玉県の水需給状況



北千葉広域水道企業団の水需給状況

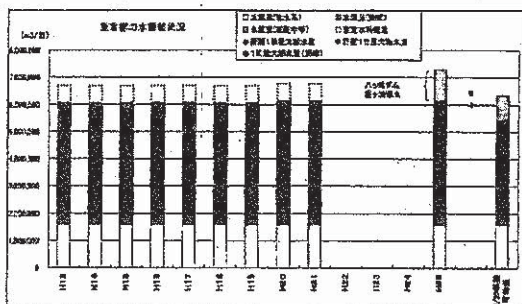


印旛郡市広域市町村圏事務組合の水需給状況



茨城県水道(利根川水系)の水需給状況

東京都の水需給状況
(地下水を水源として来ながらハッ場ダムができると切り替える計画)



東京都の水需給状況